

いぶき 8 号平成23年9月

世界の偉人たち「驚きの日本発見記」

第7回：ジャワハルラール・ネルー (1889~1964年)

アジアの一国である日本の勝利は、アジアのすべての国々に大きな影響を与えた。わたしは少年時代、どんなにそれに感激したかを、おまえによく話したことがあったものだ。たくさんのアジアの少年、少女、そして大人が、おなじ感激を経験した。ヨーロッパの一大強国は破れた。だとすればアジアは、そのむかし、しばしばそういうことがあったように、いまでもヨーロッパを打ち破ることもできるはずだ。(出典「父が子に語る世界歴史4」みすず書房)

日露戦争では東郷平八郎率いる日本海軍の連合艦隊の類希な戦略により、3 倍近い戦力を保有するバルチック艦隊は 1905 年 5 月の 1 回の海戦により戦力の大半を失い、日本は大国ロシアに勝利しました。ネルーがこの日本海海戦のニュースを知ったのは 15 歳のとき。家族とともにイギリスを旅行していたその途中のことでした。一人娘のインディラに送った上記書簡を見てわかるように、ニュースを聞いてネルー少年は狂喜し、独立の意思を確固たるものにしました。ビルマもベトナムもトルコも、エジプトなどイスラム諸国も、さらには北欧のフィンランドやスウェーデンをも歓喜し、独立の気運が盛り上がりました。42 年後インドは独立を勝ち取り、首相となったネルーは愛娘の名をつけた象を日本に贈っています。このように日露戦争は、様々な国に多大な影響をもたらし、白人の世界観を阻止し、世界史を大回天させたのでした。(M. I)

